

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200908
法人名	株式会社 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム 青空
所在地	今治市南高下町2丁目2-67
自己評価作成日	平成24年 10 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は「お年寄りの喜ぶ栄養バランスのとれた残色の無い食事作り」に取り組んでいます。薄味で彩りや季節感に注意、和食を中心に、毎食少量ずつ10~13種のメニューを作っています。残食は殆ど無く、皆さん美味しいと喜んでくれます。身体の調子を崩す方も減ったように思います。又、入浴の好きな方が多いので「毎日入浴」の時間を設け、午後のひと時をのんびりと気分転換して頂いています。毎日更衣もし、清潔に努めています。そして、「出来る限り自分の足で歩こう・寝たきり防止をしよう」と毎日散歩をし、日中は出来るだけフロアに誘っています。徘徊される方もいますが、出入口も施錠せず。自由に行動して頂いています。危険防止には見守りの徹底と言葉がけの工夫で対応しています。地域の方ともコミュニケーションをとり、地域密着型サービス事業としてよりよい関係作り年2回は「五施設合同ふれあい交流会」を主催者として開催、情報交換の場として参加者に喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に開設された事業所は、地域住民がいつでも気軽に立ち寄れるよう事業所のホールを自治会の集会場所として提供するなど、地域の一員としての役割を果たしている。母体法人が外食産業を営んでいることもあって開設当初から「食」に力を入れており、品数豊富でバランスの取れた食事が提供され、ほとんどの利用者が完食し健康維持につながっている。経験豊富な管理者の指導のもと、「愛情を込めた介護」ができるよう全職員で取り組んでいる。利用者一人ひとりのペースを大切にしながら日々のケアに向き合っており、利用者は笑顔でゆったりと穏やかな暮らしを継続することができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	ハートフルケアホーム青空
(ユニット名)	春
記入者(管理者)	
氏名	古賀京子
評価完了日	平成 24 年 10 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 自分たちで「自分がして欲しいケア」と「自分がして欲しくないケア」について書き出しまとめ作った理念をホームの各所に提示し、理念の共有と常に振り返りの原点として意識付けを図り、実践につなげている。	
			(外部評価) 職員間で話し合い作成された理念は、地域の一員である利用者の生活や思いを大切にしながら支援したいという願いが込められ、自然に意識できるようになっている。いつでも確認できるよう名札の裏に入れ、申し送り時や日々のケアの中でお互いに声をかけ合いながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治体に加入し、ホームを集会や子供みこしの休息場に利用していただいたり、公園の掃除にも参加、又、子供さんやご家族が季節のものを届けてくれたり施設の特別なお料理を届けて、毎日の周辺散歩時挨拶を交わす等、何かと自治体の一員として日常的に交流している。	
			(外部評価) 事業所のホールを自治会の集会場所として提供し、近隣住民が立ち寄りやすいようにしている。近所から野菜の差し入れがあったり、事業所で作った料理を届けるなど交流が盛んに行われている。また散歩中に声をかけあったり、事業所の前で子どもたちの遊ぶ声が響くなど、地域にとけ込んだ生活が継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設行事に参加いただき利用者さんと交流したり、散歩時お話の中で自然に認知症の方を理解していただいている。施設にこられた時にも施設長は認知症の方との声がけ、見守り、寄り添う方法など日常のお付き合いの仕方の説明もされお一人おひとり違う事も伝えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて、業務報告や取り組みなどの報告を行っている。又民生委員さんに自治体全体の情報提供や意見をいただいたり、家族の思いを聞かせていただいたり、市職員は専門的な情報を提供してくれたり活潑な意見もで、サービスの向上に生かしている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は自治会長や家族、地域包括支援センター職員などが参加し、様々な意見交換が行われている。また職員も交替で参加することにより、職員自身が地域と関わるという意識が高まり、利用者へのサービス向上に活かされている。</p>	<p>会議に参加できなかった方にも、議事録を閲覧することで内容が理解でき次回につながるので、詳細な議事録をとることが望ましい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市役所、社協職員と日ごろから連絡を取り合い、交流をお互いに図っている。市担当者も運営推進会議に参加して下さり、情報を頂く等協力関係は日ごろからできている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者との連携は、運営推進会議で意見交換する以外にも、日頃から電話等で質問や相談を気軽にできる関係が構築されている。困難事例の相談を受けたりすることもある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修や日々の管理職の話しなどから、身体拘束については職員は良く理解している。玄関は施錠しない、ベットの四方柵はしない、行動制限はしない、等注意している。危険については、声がけ見守りの徹底にて対応。身体拘束0は日常的なケアを見直し、環境を見なおしケアの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、研修会に参加するなど考える機会を設けており、日頃から職員は意識し共有を図っている。車椅子移動の利用者が食事をする時には、必ず椅子に移乗し食事を摂るなど、常に利用者にも与える身体的・精神的苦痛を理解した上で、自由な暮らしとは何かについて考えながらケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の機会を持ち、学習している。また、気付かず虐待していることはないか、虐待は絶対許さない、と言う強い気持ちで職員全員で注意し合いながら防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加したり資料を読んだりしてして知識の習得に努めている。以前は制度のご利用者もいたが今はご利用者なし。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、時間をかけて方針や料金他十分な説明を行い見学をしていただく。そして疑問や不安を尋ね、理解、納得して頂いた上でやっている。青空での本人面接時時間があれば食事を付き添いのかたと一緒に食べ雰囲気味わって頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開いて、民生委員さんからは地域全体の情報提供や意見を聞き、家族さんからも不安な事や意見を聞かせていただき運営に反映している。玄関に意見箱も設置している。  (外部評価) 日常生活報告書や電話で利用者の様子を伝えて家族と交流を図っている。面会時や行事等の際には、家族が意見を言いやすい雰囲気を作るなど工夫している。家族を交えての外出行事や食事会は、意見や要望を聴く良い機会となっており、意見等は事業所の運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 普段から管理者と職員の話し合いはよくできており、運営に関する意見や提案があれば職員はすぐに管理者に言う事ができる。管理者はそれを皆で話し合い、運営に反映してくれる。</p> <p>(外部評価) 管理者は日頃から介護現場に入り、職員が何でも言いやすい関係を築き、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員から出た意見やアイデアは、その場で話し合い解決を図っている。また、勤務シフトにも配慮しながら研修会への参加や資格取得を支援し、意欲向上に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、私たちの努力や実績の報告を受けたり実際に見たりしてよく把握してくれ、給与や勤務体制に反映してくれる。動きやすい職場環境になっている。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) このホームで働きながらいろいろな資格を習得した職員は大勢いる。また、いろいろな研修があれば、提示され、情報提供をしてくれる。研修には優先的にシフト予約が取れ、積極的に受講する事ができるような環境整備がされている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価) 敬老会やお花見など他施設を招待し、職員や入所者等の交流を行っている。そこで情報交換もでき、お互いの質の向上がきている。年二回は五施設合同ふれあい交流会を湯ノ浦で盛大に開催しバス旅行を楽しむ等している。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 面接時には時間をかけてお話をしている。不安なことには納得いくまでお答えしている。又入所までに見学にきていただき、食事やレクリエーション等一緒にする事もあり、安心して一日目を迎える事ができるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期面会時、家族の方にも不安や心配ごとがたくさんある。それを、時間をかけてゆっくりお聞きし、お答えするようにしている。また、ホーム内や、入所者のご様子等も見ていただき、少しでも安心して入所できるよう努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) お話ししたりご本人の様子を伺っている間に、今必要としている支援を見極めるよう努めている。今までに特別なリハビリを希望された方がおられましたが、快く利用していただく事ができました。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に介護をしているうちにどうしても「する一される」だけでない、人とひと対等な気持ちになる。そう言う気持ちも大切にしている。それが自然にお互いを支え合い、学びあう関係になっている事がある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方に今の本人をよく知っていただく意味で、病院の受診はご家族にお願いしている。行けない時はお手伝いしている。また、月に一度、家族に最近の様子を文章でお知らせしている。来所された時には、家族の時間を大切にすると共に、職員も一緒に談話することも多く、共に支援していく関係は築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで、入所者が住んでいたところに出かけることもある、とても懐かしがり話が弾む。また、近所の方や友達もよく訪ねてくれる。職員も一緒にお話することも多く、またきていただきやすいよう配慮している。  (外部評価) 利用者自身が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取ったりしながら把握している。地域に暮らす知人等の訪問や手紙や電話による馴染みの関係を継続させるため、働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者は家事やレクリエーションや食事を一緒にする中で、お互いの理解を深め、共に喜んだり励ましあったり助け合ったりしている。職員は見守りながら、必要な時には支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院にて、お見舞いに行き、本人やかぞくの方とお話したり、他の施設に行かれても、時々面会に行き情報も伝えたりして、退所後の急な、関係の断ち切れがないよう配慮している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中に利用者の思いが込められていると思うので、日々のコミュニケーションはとても大切にしている。その中で把握した本人の希望については、皆で話し合い、できる限り添えるように努めている。	
			(外部評価) 利用者自身がどのように暮らしたいか等を理解するために、常に利用者の立場に立った介護を心がけ、愛情を持って接するようにしている。声かけやコミュニケーションを通して信頼関係を構築しながら、言葉にじづらい思いなどを汲み取り、利用者への支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 何度も家族の方とお話して以前の暮らしを訪ねたり、以前のサービス担当者の方からの情報をいただいたり、本人とコミュニケーションを重ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックには注意を払い、職員全員が把握できるように報告している。そして、レクリエーションや家事などを把握していくよう努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月職員全員がそれぞれ気付いた課題をカンファレンス用紙に記入し提出している。それをもとに話し合い、家族の方や、必要な関係者からの意見もいただき、計画作成している。	
			(外部評価) 月1回開催されるカンファレンスの際に、それぞれの職員が全ての利用者の課題を出すことで、利用者と家族の思いや意向が介護計画に反映されやすく、利用者本位の介護計画になるよう留意している。また、カンファレンスでは職員全員で話し合いを行い、その人らしく暮らしていくための個別計画になるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の毎日の暮らしや気づきは個人記録に毎日記録し情報を共有している。それをもとに話し合い、家族の方や、必要な関係者からの意見もいただき、計画書を作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外泊、外出の希望、急病、遠方の家族、個人的な要望等、できる限り柔軟なサービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行ったり、敬老会などの行事にボランティア方が来てくださったり、近所のお母さんや子供たちが行事参加や野菜をもって来てくださり交流、地域の方々の支援を頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者がそれぞれのかかりつけ医を持ち、情報交換も しっかり行われており、家族や職員と受診されてい る。また、事業所の嘱託医もあり、緊急時や予防注射 等お世話になっている。受診は必ず、家族連絡・納得 の上で行っている。	
			(外部評価) 入居前の馴染みのかかりつけ医への受診は、基本的 に家族が行っている。受診内容について、家族より伝達 を受け共有を図っている。また、緊急時や急変時に は、家族と相談しながら職員が対応し、必要に応じて 介護タクシーを利用して、適切な医療が受けられるよ うに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常に気付いたときには、いち早く職場内の看護職員 に報告・相談し家族にも連絡し、適切な受診・看護を 行うよう、努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際には、家族や職員を通じて病院と密に情報 を交換もしている。退院の際には、こちらから病院に 出向き、病院関係者や家族と退院計画を話し合うこと もあるそして、じょうたいを確認したり、情報を得た りして、スムーズに退院できるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時には本人及び家族と話し合っており、同意書も 頂いている。事業所として、できることできない事 についても家族に説明している。基本的には、家族が 望めば、できる限りの支援をしていく方針ではなし あっている。	
			(外部評価) 終末期をどのように過ごしたいかについて、利用者や 家族から随時聞き取り、心身の変化に応じて話し合 いを行うようにしている。事業所で看取りの経験もあ り、利用者や家族の納得を得られるよう繰り返し話し 合いを重ねながら、安心して最期を迎えられるよう支 援している。今後さらに医療連携体制を強化していく ため、往診可能な協力医療機関を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については普段から職員に言い伝えている。研修にも参加している。救命救急処置の講習受講しうち3名は消防署で研修を受け内部研修ができるインストラクターの資格をうけている。防火訓練時等と一緒に定期訓練実施する事もあり実際に役立っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定訓練も実施、避難訓練は定期的に行っており、全職員が避難通路や方法を心得ている。地域の方には集会時の時に協力をお願いしている。常日頃から避難通路にはものを置かないよう指示スプリンクラーや避難はしごの設置もあり一段と備えが良くなり協力体制もできている。	
			(外部評価) 各災害を想定した避難訓練を年3回実施しているほか、防災のDVDで学習したり、職員が救命救急インストラクターの資格を取得するなど常に防災意識を高めるよう努めている。地域に対して災害時の協力を依頼し、事業所を地域の避難場所として提供するなど話し合っている。備蓄や水タンクの利用、スプリンクラー設置など細部に渡る準備もできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所の方は言葉に敏感な方がおおいので言葉かけには注意している。個性や気持ちを大切にし、一人の時間、自由に時間や空間も大切にいただけるように努めている。	
			(外部評価) 職員は日頃の声かけやコミュニケーションを大切にし、利用者を知る努力をし、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。また、自尊心を損ねない一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、カンファレンスや申し送り時に共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話しをゆっくり聞く姿勢と時間を大切にし、誘いや尋ねる言葉掛けをするように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の基本的な生活の流れの中、一人ひとりのペースに合わせてたり、個人の希望や状態に合わせて、柔軟に支援していくよう努めているが、9人それぞれになると、難しい時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装は本人意思で行っている。支援の必要な人にも尋ねながら決めている。散髪も本人や家族の希望により、馴染みの美容室に行ったり、職員が行ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は薄味で和風の献立が多く、彩や季節感も考えられ作られている。品数も多く全て手作りで盛りつけ等も美味しくいただく工夫がされ、楽しみながら職員といただき又一緒に下ごしらえやあと片付けも楽しくされている。	
			(外部評価) 看護師であり調理師でもある管理者自らが栄養バランスの良い献立を立て、専属の職員が調理している。1品の量を少量にし、沢山の品数を食べれるよう盛り付けにも工夫することで完食でき、健康維持につながっている。準備や後片付けを、利用者個々の力を活かしながら一緒にすることで、自信や張り合い、喜びにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 肥満の方は主食を少し減らす、便秘の方は水分量を増やす、食べられない食物は形を変えてみる、体調の悪いときはおじやにする、など個々の人に合わせて工夫している。また、水分量、食事量・体重は記録しており、職員全員が把握できるようにしている。時には家族に「好きだった物」「嫌いだった物」を尋ねて参考している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの能力にあわせて、声かけ・見守り・介助にて、全員の口腔ケアを実施している。又、私達で解決できない口の中の問題は歯科の訪問診療を受けて解決されている。。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンをはあくしている。そして、一人ひとりであった時間にトイレ誘導している。夜も、オムツ、ポータブルをつかわず、睡眠状態に合わせ、トイレ誘導し、トイレで排泄支援をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人であった排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄時の介助についても、職員で話し合い共有しながら、利用者ができない部分を支援することで、利用者の意欲の向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には繊維質の多いものを使用している。さらに便秘がちな人には水分量や運動量に気をつけている又、毎日の入浴に、トイレ内での腹圧や腹部マッサージなどできる限り自然な排便ができるよう努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お話しながらの楽しい入浴、更衣や洗身の自立を促しながらの入浴、一人ひとりでのんびりと楽しめる入浴、など、一人ひとりであった方法で入浴を楽しんでいた。基本的には毎日の入浴だが、嫌がられる時は声かけやタイミングの工夫をし、それでもいやがられる時は無理せず、利用者の状況に合わせて対応している。	
			(外部評価) 基本的に毎日入浴できる。重度化した利用者であっても湯船に浸かり入浴する喜びを大切にしている。その日の体調に合わせてシャワー浴や清拭を実施しながら、清潔を保てるよう配慮している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし、入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調を自分で考慮しながら自由に休まれる方、よる眠れないのでできるだけ日中は起きてるように気をつけている方、早く寝たい方、読み書き等してから眠る方、一人ひとりにあわせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬については処方箋の確認により、目的・副作用など理解できている。効果や症状の変化には職員皆が注意しており、頻繁に話し合ったり記録したりして、状況を家族や医療機関に提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、干し・調理の下ごしらえ、食事のあと片付け、掃除、テーブル拭き・壁面制作・事務手伝い他、一人ひとり得意な役割や作業、楽しみゴトを持っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩にはほぼ毎日にかけて、近所の教会の庭で日光浴をさせていただく事もある。ホーム行事として馴染みのホテルで五施設合同のふれあい交流会をバスで年二回湯ノ浦ハイツに出かけ利用者、家族、職員、ボランティア、従業員さん等、多くの方とも交流コミュニケーションできるよう支援。その他施設内での行事、又、ドライブやモーニングと地域に出て行く支援をしている。	
			(外部評価) 散歩は毎日取り入れており、近隣の公園へ出かけたりしながら利用者の気分転換やリハビリにつなげている。外出行事は利用者の行きたいという気持ちを大切に、外食やドライブ、喫茶店など外へ出る機会を積極的に持つことで、日々の生活に変化を取り入れストレス発散や五感刺激の良い機会としている。また外出の際には、ボランティアや家族の協力を得ながら実施しており、楽しみしている利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は職員が管理している。おやつや必需品・欲しいもの等本人や家族と相談の上、職員が購入している。本人と一緒にいく場合も多い。家族の来所時に確認していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方の家族や親戚～手紙がよく届き、大変喜ばれる。今後、返事かけるよう支援していこうとおもう。電話にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には、利用者がくつろぎやすいところにソファを置き、各部屋にはわかりやすいように大きく名前提示している。玄関には靴を履き替えたり車の乗車や散歩時に待機し易くまた事故を防ぐ為に、椅子をたくさん配置している。お天気の良い日には日光浴もできる。各壁面を利用し季節に応じた工作を掲示したり植物もおいている。</p> <p>(外部評価) 広々とした対面キッチンとなっており、その周囲で利用者が安全に調理の支度や後片付けなどができるようになっている。トイレや浴室などは臭いもなく清潔に保たれており、衛生面の管理を徹底している。また水滴が床に落ちていたら拭くなど、安全面にも配慮し、快適な空間づくりに取り組んでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには自席のほかに、数人で話したり一人でのんびりできるように、各所にソファや椅子が置かれており、季節により、日光浴なども楽しまれている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内は机・椅子・写真・仏壇・他・家族の方の配慮で、それぞれに、居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はダンスや机、仏壇など使い慣れた馴染みものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、利用者の趣味の物や家族の写真等を飾ったりするなどし、自分の居場所として、いつでも心地よく過ごせる支援に努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に安全と自立のために、てすりが設置され、家具は一人で行動しても危険がないよう、行動し易いよう、配置している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200908
法人名	株 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム青空
所在地	今治市南高下町2丁目2-67
自己評価作成日	平成24 年10 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は「お年寄りの喜ぶバランスのとれた残色の無い食事作り」に取り組んでいます。薄味で彩りや季節感に注意、和食を中心に、毎食少量づつ10~13集のメニューを作っています。残色は殆ど無く、皆さん美味しいと喜んでくれます。新たな調子を崩す方も減ったように思います。又、入浴の好きな方が多いので「毎日入浴」の時間を設け、午後のひと時をのんびりと気分転換して頂いています。毎日行為もし、清潔に努めています。そして、「できる限り自分の足で歩く・寝てきり防止をしよう」と毎日散歩をし、日中はできるだけフロアに誘っています。徘徊はされる方もいますが、出入口も

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に開設された事業所は、地域住民がいつでも気軽に立ち寄れるよう事業所のホールを自治会の集会場所として提供するなど、地域の一員としての役割を果たしている。母体法人が外食産業を営んでいることもあって開設当初から「食」に力を入れており、品数豊富でバランスの取れた食事が提供され、ほとんどの利用者が完食し健康維持につながっている。経験豊富な管理者の指導のもと、「愛情を込めた介護」ができるよう全職員で取り組んでいる。利用者一人ひとりのペースを大切にしながら日々のケアに向き合っており、利用者は笑顔でゆったりと穏やかな暮らしを継続することができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム青空

(ユニット名) 夏

記入者(管理者)  
氏名 古賀 京子

評価完了日 平成24年 10 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自分たちで「自分がして欲しいケア」と「自分がして欲しくないケア」について書き出しまとめ作った理念をホームの各所に提示し理念の共有と常に振り返りの原点として意識付けを図り、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員間で話し合い作成された理念は、地域の一員である利用者の生活や思いを大切にしながら支援したいという願いが込められ、自然に意識できるようになっている。いつでも確認できるよう名札の裏に入れ、申し送り時や日々のケアの中でお互いに声をかけ合いながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治体に加入し、ホームを集会や子供みこしの休息場に利用していただいたり、公園の掃除にも参加、又、子供さんやご家族が季節のものを届けてくれたり施設の特別なお料理を届けて、毎日の周辺散歩時挨拶を交わす等、何かと自治体の一員として日常的に交流している。</p> <p>(外部評価) 事業所のホールを自治会の集会場所として提供し、近隣住民が立ち寄りやすいようにしている。近所から野菜の差し入れがあったり、事業所で作った料理を届けるなど交流が盛んに行われている。また散歩中に声をかけあったり、事業所の前で子どもたちの遊ぶ声が響くなど、地域にとけ込んだ生活が継続できている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設行事に参加いただき利用者さんと交流したり、散歩時お話しする中で自然に認知症の方を理解していただいている。施設にこられた時にも施設長は認知症の方とのこえがけ、見守り、寄り添う方法など日常のお付き合いの仕方の説明もされお一人ひとり違う事も伝えている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて、業務報告や取り組み等の報告を行っている。また民生委員さんに自治体全体の情報や意見をいただいたり、家族の思いを聞かせていただいたり、市職員は専門的な情報をて今日してくれたり活潑な意見もで、サービスの向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は自治会長や家族、地域包括支援センター職員などが参加し、様々な意見交換が行われている。また職員も交替で参加することにより、職員自身が地域と関わるという意識が高まり、利用者へのサービス向上に活かされている。</p>	<p>会議に参加できなかった方にも、議事録を閲覧することで内容が理解でき次回につながるので、詳細な議事録をとることが望ましい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市役所、社協職員とひごろから連絡を取り合い、交流をお互いに図っている。市担当者も運営推進会議に参加して下さり、情報を頂く等協力関係日ごろからできている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者との連携は、運営推進会議で意見交換する以外にも、日頃から電話等で質問や相談を気軽にできる関係が構築されている。困難事例の相談を受けたりすることもある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修や日々の管理職の話しなどから、身体拘束については職員はよく理解している。玄関は施錠しない、ベットの四方柵はしない、行動制限はしない、等注意している。危険については、声がけ見守りの徹底にて対応・身体拘束0は日常的なケアを見直し、環境を見直しケアの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、研修会に参加するなど考える機会を設けており、日頃から職員は意識し共有を図っている。車椅子移動の利用者が食事をする時には、必ず椅子に移乗し食事を摂るなど、常に利用者にも与える身体的・精神的苦痛を理解した上で、自由な暮らしとは何かについて考えながらケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の機会を持ち、学習している。また、気付かず虐待していることはないか、虐待は絶対許さない、と言う強い気持ちで職員全員で注意し合いながら防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加してり資料を読んだりして知識の習得に努めている。以前は制度のご利用者もいたが今はご利用者なし。。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、時間をかけて方針や料金た十分な説明を行い見学していただく。そして疑問や不安を尋ね、理解、納得して頂いた上で行っている。青空での本人面接時時間があれば食事を付き添いのかたと一緒に食べ雰囲気を楽しむようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に一回運営推進会議を開いて、民生委員さんから地域全体の情報や意見を聞き、家族さんからも不安なことや意見を聞かせていただき運営に反映している。  (外部評価) 日常生活報告書や電話で利用者の様子を伝えて家族と交流を図っている。面会時や行事等の際には、家族が意見を言いやすい雰囲気を作るなど工夫している。家族を交えての外出行事や食事会は、意見や要望を聴く良い機会となっており、意見等は事業所の運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 普段から管理者と職員の話し合いはよくできており、運営に関する意見や提案があれば職員はすぐに管理者に言うことができる。管理者はそれを皆で話し合い、運営に反映してくれる。	
			(外部評価) 管理者は日頃から介護現場に入り、職員が何でも言いやすい関係を築き、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員から出た意見やアイデアは、その場で話し合い解決を図っている。また、勤務シフトにも配慮しながら研修会への参加や資格取得を支援し、意欲向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、私たちの努力や実績の報告を受けたり実際に見たりしてよく把握しおてくれ、給与や勤務体制に反映してくれる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) このホームで働きながらいろいろな資格を習得した職員は大勢いる。また、いろいろな研修があれば、提示され、情報提供をしてくれる。研修には優先的にシフト予約が取れ、積極的に受講することができるよう環境整備がされている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 敬老会やお花見等他施設を招待し、職員や入所者等の交流を行っている。そこで情報交換もでき、お互いの質の向上ができています。年二回は五施設合同ふれあい交流会を湯ノ浦で盛大に開催しバス旅行を楽しむなどできています。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時には時間をかけてお話ししている。不安なことには納得いくまでお答えしている。又入所までに見学に来ていただき、食事やレクリエーション等一緒にする事もあり、安心して一日目を迎える事ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期面会時、家族の方にも不安や心配ごとがたくさんある。それを、時間をかけてゆっくりお聞きし、お答えするようにしている。また、ホーム内や、入所紗のご様子等も見えていただき、少しでも安心して入所できるようつとめます。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) お話したりご本人お様子を伺っている間に、今必要としている支援を見極めるようつとめている。今までに特別なりハビリを希望された方がおられましたが、快く利用していただく事ができました。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に介護をしているうちにどうしても「する一される」だけでない人とひとの対等な気持ちになる。そう言う気持ちも大切にしている。それが自然にお互いを支え合い学び合う関係になっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方に今の本人をよく知っていただく意味で、病院の受診はご家族にお願いしている。行けない時はお手伝いしている。また、月に一度、家族に最近の様子を文章でお知らせしている。来所された時には、家族の時間を大切にすると共に職員も一緒に談話することも多く、共に支援していく関係築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで、入所者が住んでいたところに出かけることもある。とても懐かしがり話が弾む。また、近所の方や友達もよく訪ねてくれる。職員も一緒にお話しすることも多く、またきていただきやすいよう配慮している。  (外部評価) 利用者自身が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取ったりしながら把握している。地域に暮らす知人等の訪問や手紙や電話による馴染みの関係を継続させるため、働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者は家事やレクリエーションや食事を一緒にする中で、お互いの理解を深め、共に喜んだり励ましあったり助け合ったりしている。職員は必要な時には支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院にて退所されても、お見舞いに行き、本院やかぞくの方とお話ししたり、他の施設に行かれても、時々面会に行き情報も伝えたりして、退所後の急な、関係の断ち切れがないよう配慮している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中に利用者の思いが込められていると思うので、日々のコミュニケーションはとても大切にしている。その中で把握した本人の希望については、皆で話し合い、できる限り添えるように努めている。	
			(外部評価) 利用者自身がどのように暮らしたいか等を理解するために、常に利用者の立場に立った介護を心がけ、愛情を持って接するようにしている。声かけやコミュニケーションを通して信頼関係を構築しながら、言葉にしづらい思いなどを汲み取り、利用者への支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 何度も家族の方とお話して以前の暮らしを訪ねたり、以前のサービス担当者の方からの情報をいただいたり、本人とコミュニケーションを重ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックに注意を払い、職員全員が把握できるように報告している。そして、レクリエーションや家事などを把握していくよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月職員全員がそれぞれ気付いた課題をカンファレンス用紙に記入し提出している。それをもとに話し合い、家族の方や、必要な関係者からの意見もいただき、計画作成している。	
			(外部評価) 月1回開催されるカンファレンスの際に、それぞれの職員が全ての利用者の課題を出すことで、利用者と家族の思いや意向が介護計画に反映されやすく、利用者本位の介護計画になるよう留意している。また、カンファレンスでは職員全員で話し合いを行い、その人らしく暮らしていくための個別計画になるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の毎日の暮らしや気づきは個人記録毎日記録し情報を共有している。それをもとに話し合い、家族の方や必要な関係者からの意見もいただき、計画書を作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外泊、外出の希望、急病、遠方のかぞく、個人的な要望等できる限り柔軟なサービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行ったり、敬老会などの行事にボランティアの方が来てくださったり、近所のお母さんや子供たちが行事参加や野菜をもって来てくださり交流、地域の方々の支援を頂いている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者がそれぞれのかかりつけ医を持ち、情報交換も しっかりと行われており、家族や職員と受診されてい る。また、事業所の嘱託医もあり、緊急時や予防注射 等お世話になっている。受診は必ず、かぞく連絡・納 得の上で行っている。	
			(外部評価) 入居前の馴染みのかかりつけ医への受診は、基本的 に家族が行っている。受診内容について、家族より伝達 を受け共有を図っている。また、緊急時や急変時に は、家族と相談しながら職員が対応し、必要に応じて 介護タクシーを利用して、適切な医療が受けられるよ うに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常に気付いたときには、いち早く職場内の看護職員 に報告・相談し家族にも連絡し、適切な受診・看護を 行うよう、努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際には、家族や職員を通じて病院と密に情報を 交換している。隊員の際には、「こちらから病院位」で 向き、病院関係者や家族と退院計画を話し合うことも あるそして、じゅたいを確認したり、情報を得たりし て、スムーズに退院できるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時には本人及び家族と話し合っており、同意書も 頂いている。事業所として、できることできない事 についても家族に説明している。基本的には、家族が望 めば、できる限りの支援をしていく方針ではなしあつ ている。	
			(外部評価) 終末期をどのように過ごしたいかについて、利用者や 家族から随時聞き取り、心身の変化に応じて話し合 いを行うようにしている。事業所で看取りの経験もあ り、利用者や家族の納得を得られるよう繰り返し話し 合いを重ねながら、安心して最期を迎えられるよう支 援している。今後さらに医療連携体制を強化していく ため、往診可能な協力医療機関を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応についてはふだんから職員に言い伝えている。研修にも参加している。救命救急処置の講習受講のうち3名は消防署で研修を受け内部研修ができるインストラクターの資格を受けイェいる。防火訓練時等と一緒に定期訓練実施する事もあり実際に役立っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定訓練も実施、避難訓練は定期的に行っており、全職員が避難通路や方法を心得ている。地域の肩には集会時の時に協力をお願いしている。常日頃から避難通路にはものを置かないよう指示スプリンクラーや避難はしごの設置もあり一段と備えが良くなり協力体制もできている。	
			(外部評価) 各災害を想定した避難訓練を年3回実施しているほか、防災のDVDで学習したり、職員が救命救急インストラクターの資格を取得するなど常に防災意識を高めるよう努めている。地域に対して災害時の協力を依頼し、事業所を地域の避難場所として提供するなど話し合っている。備蓄や水タンクの利用、スプリンクラー設置など細部に渡る準備もできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所の方は言葉に敏感な方がおおいので言葉かけには注意している。個性や気持ちを大切にし、一人の時間、自由に時間や空間も大切にさせていただけるように努めている。	
			(外部評価) 職員は日頃の声かけやコミュニケーションを大切にし、利用者を知る努力をし、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。また、自尊心を損ねない一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、カンファレンスや申し送り時に共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話しをゆっくり聞く姿勢と時間を大切にし、誘いや尋ねる言葉掛けをするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の基本的な生活の流れの中、一人ひとりのペースに合わせて、個人の希望や状態に合わせて、柔軟に支援して行くよう努めているが、9人それぞれとなると、難しい時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装は本人の意思で行っている。支援の必要な人にも尋ねながら決めている。散髪も本人や家族の希望により、馴染みの美容院にいたり、職員が行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は薄味で和風のこんだてが多く、彩や季節感も考えられ作られている。品数もおおく全て手作りで盛り付け等も美味しくいただけ工夫がされ、楽しみながら職員といただき又一緒に下ごしらえやある片付けも楽しくされている。	
			(外部評価) 看護師であり調理師でもある管理者自らが栄養バランスの良い献立を立て、専属の職員が調理している。1品の量を少量にし、沢山の品数を食べれるよう盛り付けにも工夫することで完食でき、健康維持につながっている。準備や後片付けを、利用者個々の力を活かしながら一緒にすることで、自信や張り合い、喜びにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 肥満の方は主食を減らす、便秘の方は水分量を増やす、食べられない食物は形を変えてみる、体調の悪いときはおじやにする、など個々の人に合わせて工夫している。水分量・食事量・体重は記録しており、職員全員が把握できるようにしている。時には家族に「好きだった物」「嫌いだった物」を尋ねて参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの能力に合わせて、声がけ・見守り・介助にて、全員の口腔ケアを実施している。又、私達で解決できない口の中の問題は歯科の訪問診療を受けて解決している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンをはあくしている。そして、一人ひとりにあつた時間にトイレ誘導している。夜も、オムツ・ポータブルはを使わず、睡眠状態に合わせ、トイレ誘導し、トイレで排泄支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあつた排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄時の介助についても、職員で話し合い共有しながら、利用者ができない部分を支援することで、利用者の意欲の向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には繊維質の多いものを使用している。さらに便秘がちな人には水分料屋運動料に気をつけている又、毎日の入浴に、トイレ内での腹圧や腹部マッサージ等できる限り自然な」排便ができるよう努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お話しながらの楽しい入浴、更衣室洗心の自立を促しながらの入浴、一人ひとりでのんびりと楽しめる入浴、など、一人ひとりにあつた方法で入浴を楽しんでいただいている。基本的には毎日の入浴だが、嫌がられる時は声かけやタイミングの工夫をし、それでもいやがられる時は無理せず、利用者の状況に合わせて対応している。	
			(外部評価) 基本的に毎日入浴できる。重度化した利用者であっても湯船に浸かり入浴する喜びを大切にしている。その日の体調に合わせてシャワー浴や清拭を実施しながら、清潔を保てるよう配慮している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし、入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調を自分で考慮しながら自由に休まれる方、よるねむれないのでできるだけ日中起きてるように気をつけている方、早く寝たい方、読み書き等してから眠る方、一人ひとりにあわせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬については処方箋の確認により目的・副作用など理解できている。効果や症状の変化には職員皆が注意しており、頻繁に話しあったり記録したりして、譲許を家族や医療機関に提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、干し・調理の下ごしらえ食事のあと片付け、掃除」、テーブル拭き・壁面制作・事務手伝い他、一人ひとり得意な役割屋作業、楽しみゴトを持っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩にはほぼ毎日にかけて、近所の教会の庭で日光浴をさせていただく事もある。ホーム行事として馴染みのホテルで「五」施設合同のふれあい交流会をバスで年二回湯ノ浦ハイツに出かけ利用者、家族、職員、ボランティア、従業員さん等、多くの方とも交流コミュニケーションできるよう支援。その他施設内での行事、又、「ドライブやモーニングと地域に出て行く支援をしている。	
			(外部評価) 散歩は毎日取り入れており、近隣の公園へ出かけたりしながら利用者の気分転換やリハビリにつなげている。外出行事は利用者の行きたいという気持ちを大切に、外食やドライブ、喫茶店など外へ出る機会を積極的に持つことで、日々の生活に変化を取り入れストレス発散や五感刺激の良い機会としている。また外出の際には、ボランティアや家族の協力を得ながら実施しており、楽しみしている利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は職員が管理している。おやつや必需品・欲しいもの等本院や家族と相談の上、職員が購入している。本人と一緒にいく場合も多い。家族の来所時に確認していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方の家族や親戚～手紙がよく届き、大変喜ばれる。今後、返事かけるよう支援していこうとおもう。電話にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には、利用者がくつろぎやすいところにソファを置き、各部屋にはわかりやすいように大きく名前提示している。玄関には靴を履き替えたり車の乗車や散歩時に待機し易くまた事故を防ぐ為に、椅子をたくさん配置している。お天気の良い日には日光浴もできる。各壁面を利用し季節に応じた工作を提示したり植物もおいている</p> <p>(外部評価) 広々とした対面キッチンとなっており、その周囲で利用者が安全に調理の支度や後片付けなどができるようになっている。トイレや浴室などは臭いもなく清潔に保たれており、衛生面の管理を徹底している。また水滴が床に落ちていたら拭くなど、安全面にも配慮し、快適な空間づくりに取り組んでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには自席のほかに、数人で話したり一人のんびりできるように、各所にソファや椅子がおかれており、季節により、日光浴なども楽しまれている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内は机・椅子・写真・仏壇・他・家族の方の配慮で、それぞれに、居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はダンスや机、仏壇など使い慣れた馴染みものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、利用者の趣味の物や家族の写真等を飾ったりするなどし、自分の居場所として、いつでも心地よく過ごせる支援に努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に安全と」自立の為に、てすりがせつちされ、家具は一人で行動しても危険がないよう、行動し易いよう、配置している。</p>	